

2022年4月26日

会社名 株式会社ジェーソン

代表者 代表取締役社長兼会長 太田万三彦

(コード番号:3080 東証スタンダード市場)

問い合わせ先 常務取締役経営企画室長 山田 仁夫

電話番号：04-7193-0911 (代表)

2022年2月期 質疑応答集

この質疑応答集は、2022年4月13日（水）に発表した2022年2月期決算発表後の投資家からの問い合わせおよび1on1ミーティングにて皆様からいただいた主なご質問をまとめたものです。ご理解いただきやすいよう、一部内容の加筆・修正を行っております。

Q1 | 2022年2月期の配当金は期初予想では1株当たり9円、最終的には13円に増配となりましたが、こちらの背景は？

A | 当社は将来の事業展開と経営体質のため内部留保を行いつつ、株主の皆様継続的・安定的な株主還元を行っていきたいと考えています。当期の1株当たりの配当金につきましては、直近の業績や財務状況等を総合的に勘案した結果、増配をさせていただくこととなりました。なお、2023年2月期につきましても当期と同額の1株当たり13円の配当を予定しています。

Q2 | 2022年2月期は前期比で減収減益だったが、要因は？

A | 2021年2月期はコロナ禍が始まり、巣ごもり需要の影響を大きく受けました。特に2020年3月～5月は来客数が増え、各月の売上高は高い水準で推移しました。そのため2022年2月期は需要の反動減を受ける形になり、前期比で減収減益でしたが、コロナ禍前にあたる前々期の2020年2月期と比較すると増収増益となりました。

Q3 | 原材料高が高騰しているが、業績への影響は？価格転嫁していく予定はあるか？

A | 当社はこれまでローコストでの経営に注力してまいりました。原材料の高騰等は依然として先行き不透明ではありますが、引き続きV.S.戦略（バラエティストア戦略）のもと、お客様には徹底した低価格にて商品を提供できるよう努めてまいりたいと考えています。

Q4 | 2023年2月期の見通しについて教えてください。

A | 2022年2月期は引き続き更なるローコスト経営の推進による生産性向上と、適切な出店やセールスプロモーションの多様化などに注力し、売上高は前期比2.8%増の270億円、営業利益は前期比10.1%増の9億6千万円を見込んでおります。なお、エネルギー価格や原材料価格の高騰によるコストの増加が業績に影響を与える可能性があります。その影響度合いを現時点で算定することは難しく、2023年2月期の業績には見込んでおりません。

Q5 | 2022年2月期に全店舗で販売が開始されたPB商品 「尚仁沢の天然水」の販売状況について教えてください。

A | 当社は当期、新規PB商品である「尚仁沢の天然水」の全店舗での販売を始めました。おかげさまで販売状況は好調であり、2023年2月期では生産体制の拡大をより一層進め、今後の当社の主力商品に育成していきたいと考えています。

以上